



業務課長 佐々木生治

千キロメートルのこの海峡は、主にインドネシア、マレーシア、シンガポールの三国に囲まれた世界最大の難所とされている。その航行の安全を確保するため、光波標識、電波標識などの航行援助施設を設置しています。第一号の航路標識設置から約三十年が経過するため、平成元年から一基のペースで、古くなった航路標識の建て替えを行っています。平成十年まで、すでに十基

財団法人 マラッカ海峡協議会
03-3504-0548

他に類がない全長

航路標識増設で海難事故減少

年一回の点検・巡回

の約六割を占めるま

「マラッカ・シンガポール海峡の航路標識整備」

マラッカ海峡協議会では、マラッカ・シンガポール海峡に一九七一年（昭和四十六年）から、航路標識を設置してきました。設置場所には三十カ所を数え、大型船が浅瀬が点在、時には海賊の出没も

の建て替えが終了しました。同時に年一回、約一カ月の期間を費やし、沿岸国と共同で航路標識の点検・巡回も行っています。設置場所によっては、老朽ではなく、船が衝突して機能不能になるケースや、機器の盗難被害などもあるため、



日本財団
The Nippon Foundation

<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

私達は、競艇の売上げの3.3%を受けて、この事業を支援しています。